

米國紀行④(最終回)

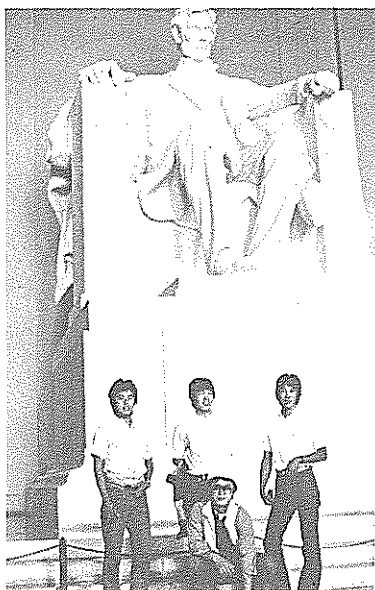
岡 雅司
(才谷市4市長
才谷クラブ会長)



日本の工業製品は世界のトップ

北の州の寒さが和らぐころ、スノーボードはそれぞれ故郷へと帰り始める。この時期になるとフルーツスタンドが再び忙しい日々を迎える。そして、この時期を過ぎるとトラクターでの除草・耕起、灌水などの諸作業を経て、ここでの研修は終わりを告げ、日さしの強くなるのを背にアメリカ東部の旅へと出発する。

観光を兼ねた十日間のバスでの大陸横断を通じて、研修生同士で



ワシントン市にある第16代大統領リンカンの石像前で(左が岡さん)

経験談などを語り合いながら国土の広さを再び体で感じさせられた。

過ぎてしまえば実際に短かった二年間であった。この間に多くの事を学び経験することができ、またアメリカ人、メキシコ人はもちろん、中国人、イラン人、エルサルバドル人、そして日系人ら多くの人と接し、人種のるつぼであることを再認識した。

あるとき、アメリカ人に「ソ連とアメリカが戦争になればどちらが勝つと思うか」と、単なる気持ちで質問したところ、彼は「アメリカが勝つに決まっている。なぜならば、ソ連は社会主義であるの

に対し、アメリカは資本主義である。つまり、私たちはそのとき自由を取り戻すために自ら立ち上がるだろう」と言った。また一方、義理、人情、年功序列それに絶対的な集団優先であり、自己主義的人間の多いように思う日本人に比べ、米国人は自由と平和を非常に強く重んじる多種多様な人間の集団であるように思う。

また、米国内にはこれほどまでにかというほど日本の工業製品、電気製品等がはんぱしている。米国内で長年生活している日本人が言っていた。「最初この国に来たころは、せつかくだからとか珍しいとかいって米國製品を買っていたが、やはり性能、品質、安全性などの面から見ても日本製品に劣っており、知らぬ間に日本製品を買うようになっていった。また日本製品でないとならないようになった」。

これほどまでに日本は工業部門等においては世界のトップである。しかし、残念なことに農業については例外であり、米国の足もとに及ばないのが現状であろう。

そこで、「日本の農産物でなければならぬ」という日が来るように、米國での体験を生かしがんばっていくつもりである。

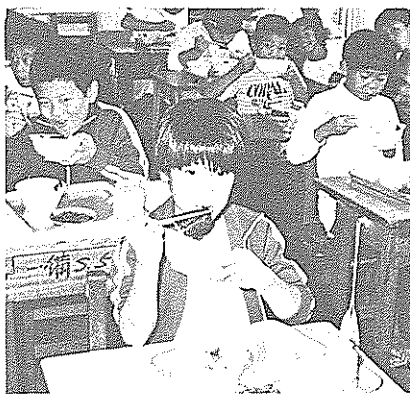
最後に、今年はいYY(国際青年年)でもあります。この年をき

っかけとして世界中の青年が手と手を取り合い、次世代の主役として世界平和のために、諸問題解決にと、それぞれの場で活躍していかなければならないと外国生活を体験した一人として感じることも、地域青年活動(4日クラブ)に積極的に参加しております。

Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y・Y

『うなどん』に大喜び

《国府小》



特別メニューのうなどんに大喜びの子供たち

おいしいお米とウナギを食べてもらおうと、十月二十一日、市米消費拡大推進協議会が国府小学校(竹村一起校長、百五十三人)の子供たちに「うなどん」を贈りました。

これは、米消費拡大事業の一環として行われたもので、お米十六キロとウナギ百匹を用意し、調理は久枝の高知県淡水養殖漁業協同組合(原正登司組合長)の人たちが協力。校庭に特設調理台を作り、

これからも一人でも多くの青年の参加を促し、地域活動をよりいっそう盛り上げていくつもりです。今回で、このシリーズは終わります。楽しい体験談を寄せていただいた岡雅司さん、本当にありがとうございました。

おいしいお米とウナギを食べてもらおうと、十月二十一日、市米消費拡大推進協議会が国府小学校(竹村一起校長、百五十三人)の子供たちに「うなどん」を贈りました。また、調理台の隣ではパトランプの実演も行われ、子供たちは大喜び。

昼食の時間になると、みんなが一斉に「ありがとうございます。いただきます」と、元気な声でお礼を述べ、早速うなどんを試食。「おいしい。おいしい」と、特別メニューに満足そうでした。